

水道事業ガイドライン業務指標の算出結果

(平成22年度～26年度)

平成28年2月29日作成

目 標	業務指標番号	ページ
安心:すべての国民が安心しておいしく飲める水道水の供給		
a 水資源の保全	1001～1005	p2
b 水源から給水栓までの水質管理	1101～1117	p2～p3
安定:いつでもどこでも安定的に生活用水を確保		
a 連続した水道水の供給	2001～2008	p4
b 将来への備え	2101～2107	p4～p5
c リスクの管理	2201～2218	p5～p6
持続:いつまでも安心できる水を安定して供給		
a 地域特性にあった運営基盤の強化	3001～3027	p7～p9
b 水道文化・技術の継承と発展	3101～3112	p9～p10
c 消費者ニーズをふまえた給水サービス	3201～3210	p10
環境:環境保全への貢献		
a 地球温暖化防止、環境保全などの推進	4001～4006	p11
b 健全な水循環	4101	p11
管理:水道システムの適正な実行・業務運営及び維持管理		
a 適正な実行・業務運営	5001～5009	p12
b 適正な維持管理	5101～5115	p12～p13
国際:わが国の経験の海外移転による国際貢献		
a 技術の移転	6001	p14
b 国際機関、諸国との交流	6101	p14
県営水道が独自に設定した指標		p14

【表中の記号について】

業務指標の説明の欄	↑	数値が高いほうが望ましいことを表しています。
	↓	数値が低いほうが望ましいことを表しています。
	—	数値の高低だけでは評価できないことを表しています。
算出値の欄	*	一部不確実なデータを含んで算出している数値であることを表しています。
	—	データが無く算出できないことを表しています。

神奈川県企業庁企業局

安心(全ての国民が安心しておいしく飲める水道水の供給)

番号	業務指標	算定式	業務指標の説明	指標値					
				H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	
1001	水源利用率(%)	$(\text{一日平均配水量}/\text{確保している水源水量}) \times 100$	水源のゆとり度、水源の効率性を表す指標です。	—	64.8	64.0	63.8	63.6	63.0
1002	水源余裕率(%)	$((\text{確保している水源水量}/\text{一日最大配水量}) - 1) \times 100$	水源のゆとり度、水源の効率性を表す指標です。	—	38.5	39.2	42.9	40.0	45.8
1003	原水有効利用率(%)	$(\text{年間有効水量}/\text{年間取水量}) \times 100$	取水量に対して有効に使われた水量の割合を表しています。	↑	93.0	92.2	92.3	92.1	91.3
1004	自己保有水源率(%)	$(\text{自己保有水源水量}/\text{全水源水量}) \times 100$	全体の水源水量に対して独自で管理している水源の割合を表しています。自己保有水源以外は神奈川県内広域水道企業団からの受水により給水しています。	—	34.3	34.3	34.3	34.3	34.3
1005	取水量1m ³ 当たり水源保全投資額(円/m ³)	水源保全に投資した費用/その流域からの取水量	水源保全への取り組み状況を表す指標です。	—	0.74	0.59	0.60	0.56	0.58
1101	原水水質監視度(項目)	原水水質監視項目数	原水監視の取り組み状況を表す指標です。	↑	*76	*74	*74	*73	*73
1102	水質検査箇所密度(箇所/100km ²)	$(\text{水質検査採水箇所数}/\text{給水区域面積}) \times 100$	給水栓の毎日水質検査箇所の選定に関する指標です。	↑	13.4	13.4	13.4	13.4	13.4
1103	連続自動水質監視度(台/(1000m ³ /日))	$(\text{連続自動水質監視装置設置数}/\text{一日平均配水量}) \times 100$	配水量あたりの連続自動水質監視装置の設置数を表しています。県営水道では平成18年度より自動水質測定装置の整備を進めています。	↑	0.092	0.093	0.093	0.094	0.094
1104	水質基準不適合率(%)	$(\text{水質基準不適合回数}/\text{全検査回数}) \times 100$	給水栓における全水質検査回数のうち、水質基準に不適合であった回数の割合を表しており、0%であるべき指標です。	↓	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1105	カビ臭から見たおいしい水達成率(%)	$((1 - \text{ジエオキシ最大濃度}/\text{水質基準値}) + (1 - \text{2メチルイソボルネオール最大濃度}/\text{水質基準値})) / 2 \times 100$	水質基準を満たした上で、よりカビ臭物質の少ないおいしい水であることを表す指標です。	↑	60	70	60	60	60
1106	塩素臭から見たおいしい水達成率(%)	$(1 - (\text{年間残留塩素最大濃度} - \text{残留塩素水質管理目標値}) / \text{残留塩素水質管理目標値}) \times 100$	残留塩素濃度最大値が水質管理目標値(0.4mg/L)にどれだけ近いかを表す指標。年間残留塩素最大濃度が0.4mg/L以下だと100%(ただし法令上0.1mg/L以上必用)、0.8mg/L以上だと0%となります。	↑	0	0	0	0	0
1107	総トリハロメタン濃度水質基準比(%)	$(\text{総トリハロメタン最大濃度}/\text{総トリハロメタン濃度水質基準値}) \times 100$	測定された総トリハロメタン濃度の最大値が水質基準値に占める割合で、数値が低いほうがより安全な水であることを表しています。	↓	32	34	35	27	34

番号	業務指標	算定式	業務指標の説明	指標値					
				H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	
1108	有機物(TOC)濃度水質基準比(%)	$(\text{有機物最大濃度} / \text{有機物水質基準値}) \times 100$	測定された有機物濃度の最大値が水質基準値に占める割合で、数値が低いほうがより安全でおいしい水であることを表しています。	↓	27	27	23	40	27
1109	農薬濃度水質管理目標比(%)	$\Sigma(\text{農薬の給水栓での年間測定最大濃度} / \text{農薬の管理目標}) / \text{水質検査計画に記載の農薬数} \times 100$	測定された各農薬濃度の最大値がそれぞれの水質管理目標値に占める割合の平均で、数値が低いほうがより安全な水であることを表しています。	↓	0.020	0.017	0.018	0.016	0.040
1110	重金属濃度水質基準比(%)	$\Sigma(\text{重金属の給水栓での年間測定最大濃度} / \text{重金属の水質基準値}) / 6 \times 100$	測定された各重金属濃度の最大値がそれぞれの水質基準値に占める割合の平均を表しています。	↓	7	8	7	7	12
1111	無機物質濃度水質基準比(%)	$\Sigma(\text{無機物質の給水栓での年間測定最大濃度} / \text{無機物質の水質基準値}) / 6 \times 100$	測定された各無機物質濃度の最大値がそれぞれの水質基準値に占める割合の平均を表しています。	↓	18	16	16	17	15
1112	有機物質濃度水質基準比(%)	$\Sigma(\text{有機物質の給水栓での年間測定最大濃度} / \text{有機物質の水質基準値}) / 4 \times 100$	測定された各有機物質濃度の最大値がそれぞれの水質基準値に占める割合の平均を表しています。	↓	0	0	0	6	4
1113	有機塩素化学物質濃度水質基準比(%)	$\Sigma(\text{有機塩素化学物質の給水栓での年間測定最大濃度} / \text{有機塩素化学物質の水質基準値又は管理目標値}) / 9 \times 100$	測定された各有機塩素化学物質濃度の最大値がそれぞれの水質基準値又は水質管理目標値に占める割合の平均を表しています。	↓	1	1	0	0	0
1114	消毒副生成物濃度水質基準比(%)	$\Sigma(\text{消毒副生成物質の給水栓での年間測定最大濃度} / \text{消毒副生成物質の水質基準値}) / 5 \times 100$	測定された各消毒副生成物質濃度の最大値がそれぞれの水質基準値に占める割合の平均を表しています。	↓	9	10	9	8	9
1115	直結給水率(%)	$(\text{直結給水件数} / \text{給水件数}) \times 100$	受水槽を介さずに直結給水を実施している割合であり、水質管理の信頼性確保に対する取り組みの度合いを示す一つの指標です。	↑	76.6	77.0	77.1	77.5	78.2
1116	活性炭投入率(%)	$(\text{年間活性炭投入日数} / \text{年間日数}) \times 100$	浄水場で水処理のために活性炭を投入した日数の割合です。高度浄水処理施設の場合は活性炭を投入しないため、この指標で原水水質を判断することはできません。	↓	37.5	32.8	38.1	52.9	42.2
1117	鉛製給水管率(%)	$(\text{鉛製給水管使用件数} / \text{給水件数}) \times 100$	鉛製管を給水管として用いているお客さまの割合で水質の安全性を表す指標です。(お客さまの私有財産分のみで使用している件数も含む。)	↓	27.7	27.3	26.3	25.3	3.9

安定(いつでもどこでも安定的に生活用水を供給)

番号	業務指標	算定式	業務指標の説明	指標値					
				H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	
2001	給水人口一人当たり貯留飲料水量(L/人)	$((\text{配水池総容量} \times 1/2 + \text{緊急貯水槽容量}) / \text{給水人口}) \times 1000$	地震時などの災害時のために、一人一日あたり何リットルの水が常時貯えられているかを表しています。	↑	142	142	140	140	139
2002	給水人口一人当たり配水量(L/日/人)	$(\text{一日平均配水量} / \text{給水人口}) \times 1000$	一人一日あたり何リットルの水が配水されているかを表しています。節水型消費パターンの促進度合を示す指標です。	—	352	347	346	344	340
2003	浄水予備力確保率(%)	$((\text{全浄水施設能力} - \text{一日最大浄水量}) / \text{全浄水施設能力}) \times 100$	全浄水施設能力に対する予備力の割合を表しています。水運用の安定性、柔軟性及び危機対応性を示す指標です。	—	*33.2	*34.1	*36.0	*34.3	*41.1
2004	配水池貯留能力(日)	配水池総容量/一日平均配水量	一日あたりの平均配水量の何日分を配水池で貯えることができるかを表しています。	—	0.81	0.82	0.81	0.81	0.82
2005	給水制限数(日)	年間給水制限日数	年間に給水制限を実施した日数を表しています。お客さまの快適性・利便性や給水サービスの安定性を示す指標です。	↓	0	0	0	0	0
2006	普及率(%)	$(\text{給水人口} / \text{給水区域内人口}) \times 100$	水道事業サービスの享受の度合いを表す指標です。一般的に都市部では高く、農山漁村地域では低くなる傾向があります。	↑	99.7	99.8	99.8	99.8	99.8
2007	配水管延長密度(km/km ²)	配水管延長/給水区域面積	給水区域1km ² あたりの配水管延長を表しています。この指標は給水人口密度の影響を大きく受けます。	—	10.9	10.9	11.0	11.1	11.1
2008	水道メータ密度(個/km)	水道メータ数/配水管延長	配水管延長1kmあたりの水道メータ数を表しています。この指標は給水人口密度の影響を大きく受けます。	—	153	154	154	154	155
2101	経年化浄水施設率(%)	$(\text{法定耐用年数を越えた浄水施設能力} / \text{全浄水施設能力}) \times 100$	浄水施設の経年数を示す指標です。耐用年数を越えている施設であっても使用できないというわけではなく、この指標が使用の可否を表すものではありません。	↓	1.5	1.5	1.5	1.5	2.3
2102	経年化設備率(%)	$(\text{経年化年数を越えている電気・機械設備数} / \text{電気・機械設備の総数}) \times 100$	電気・機械設備の経年数を示す指標です。耐用年数を越えている設備であっても使用できないというわけではなく、この指標が使用の可否を表すものではありません。	↓	39.6	41.0	41.0	42.4	41.1
2103	経年化管路率(%)	$(\text{法定耐用年数を越えた管路延長} / \text{管路総延長}) \times 100$	管路の経年数を示す指標です。耐用年数を越えている管路であっても使用できないというわけではなく、この指標が使用の可否を表すものではありません。	↓	17.1	19.8	22.6	24.9	26.1
2104	管路の更新率(%)	$(\text{更新された管路延長} / \text{管路総延長}) \times 100$	年間に更新された管路延長の割合を表しています。県営水道では老朽度の高い管路から計画的に耐震性の高い管路に更新しています。	↑	0.62	0.62	0.62	0.63	0.59

番号	業務指標	算定式	業務指標の説明	指標値					
				H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	
2105	管路の更生率(%)	(更正された管路延長/管路総延長)×100	年間に更正(管路の内面補修)された管路延長の割合を表しています。県営水道では基本的に更正ではなく、更新(布設替え)を行っています。	—	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
2106	バルブの更新率(%)	(更新されたバルブ数/バルブ設置数)×100	年間に交換されたバルブの割合を表す指標です。	↑	—	—	—	—	—
2107	管路の新設率(%)	(新設管路延長/管路総延長)×100	年間に新設された管路延長の割合を表しています。県営水道は普及率が高いため、新設率は低くなっています。	—	0.11	0.08	0.07	0.18	0.13
2201	水源の水質事故数(件)	年間水源水質事故件数	油の流出など、水源の水質汚染事故が発生した件数。水道事業者は関係者との連絡体制の確立など事前の対策をとるとともに、事故発生時においても給水を継続していく義務があります。	↓	18	21	21	14	21
2202	幹線管路の事故割合(件/100km)	(幹線管路の事故件数/幹線管路延長)×100	幹線管路における事故件数であり、管路施設の健全性を表しています。	↓	1.4	2.6	1.0	1.6	0.5
2203	事故時配水量率(%)	(事故時配水量/一日平均配水量)×100	事故時配水量とは、最大規模の浄水場を除いた供給可能量。この指標は、最大規模の浄水場が24時間停止した場合の供給能力が一日平均給水量に対してどの程度であるかを表しています。	↑	89.7	90.7	91.0	91.3	92.2
2204	事故時給水人口率(%)	(事故時給水人口/給水人口)×100	最大規模の浄水場が停止した場合に給水が出来なくなる人口の割合を表しています。	↓	10.3	9.3	9.0	8.7	7.8
2205	給水拠点密度(箇所/100km ²)	(配水池・緊急貯水槽数/給水区域面積)×100	緊急時に応急給水できる給水拠点が100km ² (10km四方)あたり何箇所あるかを示しています。	↑	4.8	4.8	4.8	4.8	4.7
2206	系統間の原水融通率(%)	(原水融通能力/受水側浄水能力)×100	他系統からの融通可能な原水の割合であり、水運用の安定性、柔軟性、及び危機対応性を示す指標の一つです。	↑	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2207	浄水施設耐震率(%)	(耐震対策の施されている浄水施設能力/全浄水施設能力)×100	施設の設置場所で予想される最大規模の地震に対応した浄水施設能力の割合。県営水道は発生時の切迫性が指摘されている東海地震に備えた耐震化を実施しており、最大規模の地震に対応しているか重要施設から順次診断を行っています。	↑	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2208	ポンプ所耐震施設率(%)	(耐震対策の施されているポンプ所能力/全ポンプ所能力)×100	施設の設置場所で予想される最大規模の地震に対応したポンプ施設能力の割合。県営水道は発生時の切迫性が指摘されている東海地震に備えた耐震化を実施しており、最大規模の地震に対応しているか重要施設から順次診断を行っています。	↑	4.7	4.7	4.8	4.8	4.8
2209	配水池耐震施設率(%)	(耐震対策の施されている配水池容量/配水池総容量)×100	施設の設置場所で予想される最大規模の地震に対応した配水池施設能力の割合。県営水道の配水池はほとんどが発生時の切迫性が指摘されている東海地震に対応していますが、最大規模の地震に対応しているか重要施設から順次診断を行っています。	↑	4.6	8.9	13.6	19.1	21.6

番号	業務指標	算定式	業務指標の説明	指標値					
				H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	
2210	管路の耐震化率(%)	(耐震管延長/管路総延長)×100	耐震管（県営水道が使用している管においては耐震型継手を有するダクタイル鋳鉄管及び鋼管）延長の割合。県営水道では老朽管の更新等に合わせて耐震管の布設をすすめています。	↑	14.8	15.6	16.4	17.1	17.8
2211	薬品備蓄日数(日)	平均薬品貯蔵量/一日平均使用量	浄水処理に使用する塩素などの薬品が備蓄されている量を一日平均使用量の何日分に相当するかを表しています。劣化する薬品もあるため、貯蔵量が多いほど好ましいという指標ではありません。	—	*18.2	*16.9	*19.0	*21.5	*24.0
2212	燃料備蓄日数(日)	平均燃料貯蔵量/一日使用量	停電時に使用する自家発電設備の燃料が、定格で使用した場合の何日分備蓄されているかを表しています。劣化する燃料もあるため、貯蔵量が多いほど好ましいという指標ではありません。	—	*1.6	*1.5	*1.4	*1.2	*1.2
2213	給水車保有度(台/1000人)	(給水車数/給水人口)×1000	緊急時に使用する給水車の給水人口千人あたりの保有台数を表しています。	↑	0.0011	0.0018	0.0018	0.0018	0.0018
2214	可搬ポリタンク・ポリバック保有度(個/1000人)	(可搬ポリタンク・ポリバック数/給水人口)×1000	緊急時に使用する可搬ポリタンク等の給水人口千人あたりの保有個数を表しています。	↑	4.4	4.9	5.6	7.3	7.0
2215	車載用給水タンク保有度(m ³ /1000人)	(車載用給水タンクの総容量/給水人口)×1000	緊急時に使用する車載用給水タンクの給水人口千人あたりの総容量を表しています。	↑	0.014	0.015	0.015	0.016	0.015
2216	自家用発電設備容量率(%)	(自家用発電設備容量/当該設備の電力総容量)×100	浄水場に導入されている自家用発電設備の容量が、浄水場の契約電力量と自家発電設備容量の総量に占める割合を表しています。	↑	*49.0	*49.0	*49.0	*80.9	*80.9
2217	警報付施設率(%)	(警報付施設数/全施設数)×100	事務所、浄水場、ポンプ所、配水池などの施設のうち、遠隔で施設の異常を検知できる警報設備が設置されている施設の割合を表しています。	↑	94.6	94.6	95.3	95.3	95.2
2218	給水装置の凍結発生率(件/1000件)	(給水装置の年間凍結件数/給水件数)×1000	凍結により破裂した給水装置を給水件数千件当りの件数で表しています。	↓	—	—	—	—	—

持続(いつまでも安心できる水を安定して供給)

番号	業務指標	算定式	業務指標の説明	指標値					
				H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	
3001	営業収支比率(%)	$(\text{営業収益}/\text{営業費用}) \times 100$	営業費用が営業収益によってどの程度賄われているかを示すもので、この比率が高いほど営業利益率が高いことを表し、これが100%未満であることは営業損失を生じていることを意味しています。	↑	108.0	106.2	105.5	104.4	103.9
3002	経常収支比率(%)	$((\text{営業収益}+\text{営業外収益})/(\text{営業費用}+\text{営業外費用})) \times 100$	経常収益が経常費用によってどの程度賄われているかを示すもので、この比率が高いほど経常利益率が高いことを表し、これが100%未満であることは経常損失を生じていることを意味しています。	↑	102.6	101.5	101.5	101.4	104.4
3003	総収支比率(%)	$(\text{総収益}/\text{総費用}) \times 100$	総費用が総収益によってどの程度賄われているかを示すもので、この比率が100%未満の場合は、収益で費用を賄えないこととなり、健全な経営とはいえません。	↑	102.5	101.5	101.9	102.1	98.7
3004	累積欠損金比率(%)	$((\text{累積欠損金}/(\text{営業収益}-\text{受託工事収益})) \times 100$	累積欠損金の営業収益(受託工事収益を除く)に対する割合で、水道事業体の経営状況が健全な状態にあるかどうかを、累積欠損金の有無により把握しようとする指標です。0%であることが望ましい指標。	↓	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3005	繰入金比率(収益的収支分)(%)	$(\text{損益勘定繰入金}/\text{収益的収入}) \times 100$	収益的収入に対する繰入金の依存度を表しており、事業の経営状況の健全性、効率性を表す指標。水道事業は水道料金を収入源とする独立採算制を原則としています。	↓	1.9	1.9	1.7	1.6	1.4
3006	繰入金比率(資本的収支分)(%)	$(\text{資本勘定繰入金}/\text{資本的収入}) \times 100$	資本的収入に対する繰入金の依存度を表しており、事業の経営状況の健全性、効率性を表す指標。水道事業は水道料金を収入源とする独立採算制を原則としています。	↓	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3007	職員1人当たり給水収益(千円/人)	$(\text{給水収益}/\text{損益勘定所属職員数})/1000$	損益勘定職員一人当たりの生産性について、給水収益を基準として把握するための指標。この数値が高いほど職員の生産性が高いといえます。	↑	77,890	76,381	77,331	76,808	76,506
3008	給水収益に対する職員給与費の割合(%)	$(\text{職員給与費}/\text{給水収益}) \times 100$	給水収益に対する職員給与費の割合を表しており、事業の生産性及び効率性を分析するための指標です。	↓	11.9	12.4	12.5	12.4	*9.6
3009	給水収益に対する企業債利息の割合(%)	$(\text{企業債利息}/\text{給水収益}) \times 100$	給水収益に対する企業債利息の割合を示しており、事業の効率性及び財務安全性を分析するための指標です。	↓	8.8	8.2	7.8	7.5	7.3
3010	給水収益に対する減価償却費の割合(%)	$(\text{減価償却費}/\text{給水収益}) \times 100$	給水収益に対する減価償却費の割合を表しており、事業の収益性を分析するための指標です。	↓	25.3	26.2	26.8	27.3	28.3
3011	給水収益に対する企業債償還金の割合(%)	$(\text{企業債償還金}/\text{給水収益}) \times 100$	給水収益に対する企業債償還金の割合を示しており、企業債償還金が経営に与える影響を分析するための指標です。	↓	29.9	20.4	20.4	21.7	24.8
3012	給水収益に対する企業債残高の割合(%)	$(\text{企業債残高}/\text{給水収益}) \times 100$	給水収益に対する企業債残高の割合を表しており、企業債残高の規模と経営への影響を分析するための指標です。	↓	335.6	341.6	337.9	333.1	333.2

番号	業務指標	算定式	業務指標の説明	指標値					
				H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	
3013	料金回収率(給水費用の内料金で回収する割合)(%)	$(\text{供給単価}/\text{給水原価}) \times 100$	給水にかかる費用のうち水道料金で回収する割合を表しており、事業の経営状況の健全性を示す指標です。	↑	97.8	97.0	96.4	95.5	95.0
3014	供給単価(円/m ³)	給水収益/有収水量	有収水量(料金徴収の対象となった水量)1m ³ 当たりについて、どれだけの収益を得ているかを表す指標です。	↓	162.2	159.7	158.8	158.0	156.0
3015	給水原価(円/m ³)	$(\text{経常費用} - (\text{受託工事費} + \text{材料及び不用品売却原価} + \text{付帯事業費})) / \text{有収水量}$	有収水量(料金徴収の対象となった水量)1m ³ 当たりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標です。	↓	165.8	164.6	164.8	165.4	164.1
3016	1ヶ月当たり家庭用料金(10m ³)(円)	1箇月当りの一般家庭用(口径13mm)の基本料金+10m ³ 使用時の従量料金	1ヶ月あたりの水道使用量10m ³ に対する料金。お客さまの経済的負担を表す指標です。	↓	966	966	966	966	966
3017	1ヶ月当たり家庭用料金(20m ³)(円)	1箇月当りの一般家庭用(口径13mm)の基本料金+20m ³ 使用時の従量料金	1ヶ月あたりの水道使用量20m ³ に対する料金。お客さまの経済的負担を表す指標です。	↓	2,281	2,281	2,281	2,281	2,281
3018	有収率(%)	$(\text{有収水量}/\text{給水量}) \times 100$	年間の配水量(給水量)に対する有収水量(料金徴収の対象となった水量)の割合を表す指標です。	↑	89.7	88.9	89.3	89.3	88.5
3019	施設利用率(%)	$(\text{一日平均給水量}/\text{一日給水能力}) \times 100$	水道施設の経済性を総括的に判断する指標。この数値が高い方が効率的ですが、災害時や事故時に備えて一定の余裕も必要です。	—	64.6	63.9	63.7	63.4	62.9
3020	施設最大稼働率(%)	$(\text{一日最大給水量}/\text{一日給水能力}) \times 100$	水道事業の施設効率を判断する指標。この数値が高い方が効率的ですが、災害時や事故時に備えて一定の余裕も必要です。	—	72.0	71.7	69.8	71.2	68.5
3021	負荷率(%)	$(\text{一日平均給水量}/\text{一日最大給水量}) \times 100$	水道事業の施設効率を判断する指標。この値が高いほど効率的であることを表します。一般的に給水量が多い事業体ほど負荷率は高くなる傾向があります。	↑	89.7	89.1	91.2	89.1	91.9
3022	流動比率(%)	$(\text{流動資産}/\text{流動負債}) \times 100$	流動負債に対する流動資産の割合であり、事業の財務安全性をみる指標。短期債務に対する支払い能力を表しており、100%を下回っていれば不良債務が発生している可能性が高いといえます。	↑	217.0	226.1	251.0	259.1	120.7
3023	自己資本構成比率(%)	$((\text{自己資本金} + \text{剰余金}) / \text{負債} \cdot \text{資本合計}) \times 100$	総資本(負債及び資本)に占める自己資本の割合を表しており、財務健全性を示す指標です。	↑	51.8	52.4	53.1	53.9	42.8
3024	固定比率(%)	$(\text{固定資産} / (\text{自己資本金} + \text{剰余金})) \times 100$	自己資本がどの程度固定資産に投下されているかを見る指標。一般的に100%以下であれば、固定資産への投資が自己資本の枠内に収まっていることになり、財務面で安定的といえます。	↓	177.7	175.2	171.4	168.7	212.6
3025	企業債償還元金対減価償却費比率(%)	$(\text{企業債償還元金} / \text{当年度減価償却費}) \times 100$	投下資本の回収と再投資とのバランスを見る指標。一般的に100%を超えると再投資を行うに当たって企業債等の外部資金に頼らざるを得なくなるため、100%以下であると財務的に安全といえます。	↓	118.2	77.9	75.9	79.4	87.5

番号	業務指標	算定式	業務指標の説明	指標値					
				H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	
3026	固定資産回転率(回)	$(\text{営業収益}-\text{受託工事収益})/((\text{期首固定資産}+\text{期末固定資産})/2)$	1年間に固定資産額の何倍の営業収益があったかを表す指標。この数値が高いほど施設が有効に稼働していることを示し、低い場合は一般に過大投資になっていると考えられます。	↑	0.15	0.14	0.14	0.14	0.14
3027	固定資産使用効率(m ³ /10000円)	$(\text{給水量}/\text{有形固定資産}) \times 10000$	有形固定資産に対する給水量の値。この値が大きいかほど施設が効率的であることを意味します。	↑	11.7	11.6	11.7	11.7	11.8
3101	職員資格取得度(件/人)	職員が取得している法定資格数/全職員数	職員一人当たりが持っている法定資格の数を表しています。	↑	-	-	-	-	-
3102	民間資格取得度(件/人)	職員が取得している民間資格取得数/全職員数	職員一人当たりが持っている民間資格の数を表しています。	↑	-	-	-	-	-
3103	外部研修時間(時間)	$(\text{職員が外部研修を受けた時間} \times \text{人数}) / \text{全職員数}$	職員一人当たりが受けた外部研修の時間を表しています。	↑	2.5	3.0	2.1	1.5	2.6
3104	内部研修時間(時間)	$(\text{職員が内部研修を受けた時間} \times \text{人数}) / \text{全職員数}$	職員一人当たりが受けた内部研修の時間を表しています。	↑	7.1	9.0	8.7	10.3	8.4
3105	技術職員率(%)	$(\text{技術職員総数}/\text{全職員数}) \times 100$	全職員に対する技術職員の数を表しています。	-	63.1	63.5	63.3	63.9	64.7
3106	水道業務経験年数度(年/人)	全職員の水道業務経験年数/全職員数	職員の水道業務の経験年数の平均値を表しています。	-	21.5	20.8	20.2	20.2	19.7
3107	技術開発職員率(%)	$(\text{技術開発業務従事職員数}/\text{全職員数}) \times 100$	水道技術の開発に対する人的投資の度合いを表す指標です。	↑	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
3108	技術開発費率(%)	$(\text{技術開発費}/\text{給水収益}) \times 100$	水道技術の開発に対する投資の度合いを表す指標です。	↑	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
3109	職員一人当たり配水量(m ³ /人)	年間配水量/全職員数	職員一人当たり年間に何m ³ の水を配水したかを表した指標。水道サービス全般の効率性を示す指標の一つです。	↑	512,000	516,000	517,000	518,000	516,000
3110	職員一人当たりメータ数(個/人)	水道メータ数/全職員数	水道サービス全般効率性を示す指標の一つです。	↑	1,927	1,977	2,005	2,036	2,070
3111	公傷率(%)	$((\text{公傷で休務した延べ人数})/(\text{全職員数} \times \text{年間公務日数})) \times 100$	年間の延べ公務日数に占める公傷による延べ休務日数の割合。安全衛生管理の水準に係る指標です。	↓	0.000	0.008	0.000	0.040	0.019

番号	業務指標	算定式	業務指標の説明	指標値					
				H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	
3112	直接飲用率(%)	(直接飲用回答数/直接飲用アンケート回答数)×100	通常水道水を直接飲用に利用しているお客さまの割合。水道水の「飲み水」としての評価に係る指標です。	↑	—	36.8	35.2	30.8	35.8
3201	水道事業に係る情報の提供度(部/件)	広報誌配布部数/給水件数	年間に配布した広報誌「さがみの水」、「県のたより」などによる広報の活動状況を表す指標です。	↑	3.3	3.2	3.1	3.1	3.0
3202	モニタ割合(人/1000人)	(モニタ人数/給水人口)×1000	給水人口1,000人当たりの水道モニタの人数を表す指標。お客さまと県営水道の双方向のコミュニケーションを推進している度合を示す指標です。	↑	0.036	0.072	0.072	0.072	0.071
3203	アンケート情報収集割合(人/1000人)	(アンケート回答人数/給水人口)×1000	お客さまのニーズについての情報収集度を表す指標です。	↑	4.70	5.25	6.37	5.39	3.92
3204	水道施設見学者割合(人/1000人)	(見学者数/給水人口)×1000	給水人口1,000人当たりの水道施設見学者の人数を表す指標。お客さまと県営水道の双方向のコミュニケーションを推進している度合を示す指標です。	↑	20.9	16.5	12.6	17.0	16.0
3205	水道サービスに対する苦情割合(件/1000件)	(水道サービス苦情件数/給水件数)×1000	お客さまの満足度、県営水道のサービス水準を示す指標の一つです。	↓	0.05	0.02	0.03	0.02	0.01
3206	水質に対する苦情割合(件/1000件)	(水質苦情件数/給水件数)×1000	水質に関するお客さまの満足度、県営水道のサービス水準を示す指標です。	↓	0.01	0.01	0.004	0.01	0.01
3207	水道料金に対する苦情割合(件/1000件)	(水道料金苦情件数/給水件数)×1000	水道料金に関するお客さまの満足度、県営水道のサービス水準を示す指標です。	↓	0.007	0.003	0.009	0.008	0.004
3208	監査請求件数(件)	年間監査請求件数	法令に基づき水道事業に関して監査が請求された件数です。	—	0	0	0	0	0
3209	情報開示請求数(件)	年間情報開示請求件数	法令に基づき水道事業に関して情報の開示が請求された件数です。	—	207	10	50	20	30
3210	職員一人当たり受付件数(件/人)	受付件数/全職員数	お客さまが水道サービスを受けるに当たって必要となる諸手続きの全受付件数を職員一人当たりの件数で表した指標です。	—	435	436	440	431	454

環境(環境保全への貢献)

番号	業務指標	算定式	業務指標の説明		指標値				
					H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
4001	配水量1m ³ 当たり電力消費量(kWh/m ³)	全施設の電力使用量/年間配水量	水道事業に係る各施設で使用した電力の総量を年間の配水量あたりの量で表した指標です。	↓	0.31	0.30	0.30	0.30	0.28
4002	配水量1m ³ 当たり消費エネルギー(MJ/m ³)	全施設の総エネルギー消費量/年間配水量	水道事業に係る各施設、設備で使用した電力、燃料等の総量を年間の配水量あたりの量で表した指標です。	↓	1.15	1.11	1.10	1.09	1.04
4003	再生可能エネルギー利用率(%)	(再生可能エネルギー設備の電力使用量/全施設の電力使用量)×100	水力発電、風力発電、太陽光発電などにより発電、使用された電力量を全施設の電力使用量で割った値。環境負荷低減に対する取組みの度合いを表す指標です。	↑	0.66	0.88	0.96	0.93	1.0
4004	浄水発生土の有効利用率(%)	(有効利用土量/浄水発生土量)×100	浄水処理過程で発生する浄水発生土を廃棄物とせず、に再資源として有効利用している割合。環境保全への取組み度合いを表す指標です。	↑	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
4005	建設副産物のリサイクル率(%)	(リサイクルされた建設副産物量/建設副産物排出量)×100	水道工事等に伴って発生する発生土、アスファルト塊、コンクリート塊等を再資源化した量の割合。環境保全への取組み度合いを表す指標です。	↑	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9
4006	配水量1m ³ 当たり二酸化炭素排出量(g・CO ₂ /m ³)	(総二酸化炭素排出量/年間配水量)×1000000	水道事業に係る各施設、設備におけるエネルギー消費に伴い排出した二酸化炭素量を年間の配水量あたりの量で表した指標です。	↓	121	141	141	158	151
4101	地下水率(%)	(地下水揚水量/水源利用水量)×100	水道水源として地下水を使用している割合を表しています。	—	1.0	1.0	0.9	0.9	0.9

管理(水道システムの適正な実行・業務運営及び維持管理)

番号	業務指標	算定式	業務指標の説明	指標値					
				H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	
5001	給水圧不適正率(%)	(適正な範囲になかった圧力測定箇所×日数/(圧力測定箇所総数×年間日数))×100	水圧が適正な範囲に無かった箇所×日数が水圧を測定している全箇所×年間日数に占める割合を表しています。	↓	0.13	0.00	0.00	0.00	0.00
5002	配水池清掃実施率(%)	(最近5年間に清掃した配水池容量/(配水池総容量/5))×100	配水池の清掃状況を表す指標です。	↑	413	350	313	340	402
5003	年間ポンプ平均稼働率(%)	(ポンプ運転時間の合計/(ポンプ総台数×年間日数×24))×100	各施設に設置されているポンプが年間にどの程度運転しているかを表す指標。ポンプ施設の余裕度を表しています。	—	26.2	25.7	25.7	26.3	24.9
5004	検針誤り割合(件/1000件)	(誤検針件数/検針総件数)×1000	水道メータ指針の読み間違い、検針戸票の入れ間違いなど検針に関する誤りの割合を表す指標です。	↓	—	—	—	—	—
5005	料金請求誤り割合(件/1000件)	(誤料金請求件数/料金請求総件数)×1000	料金請求額の間違い、請求先の間違いなど料金請求に関する誤りの割合を表す指標です。	↓	—	—	—	—	—
5006	料金未納率(%)	(年度末未納料金総額/総料金収入額)×100	年度末において収納されていない料金の割合。なお、このうち大部分は翌年度当初に収納されるため、全てが未納金となるわけではありません。	↓	8.3	8.4	8.1	8.4	8.3
5007	給水停止割合(件/1000件)	(給水停止件数/給水件数)×1000	水道料金が未納となって給水を停止した件数を給水件数1,000件当たりで表した指標です。	↓	18.6	19.6	18.2	16.9	16.9
5008	検針委託率(%)	(委託した水道メータ数/水道メータ数)×100	水道メータの検針業務を委託している件数の割合です。	—	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
5009	浄水場第三者委託率(%)	(第三者委託した浄水場能力/全浄水場能力)×100	水道法第24条の3に基づく技術管理者を置く浄水場の委託を実施している割合です。	—	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
5101	浄水場事故割合(10年間の件数/箇所)	10年間の浄水場停止事故件数/浄水場総数	過去10年間で浄水場が事故により送水が停止した件数を浄水場1箇所あたりで表した指標です。	↓	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5102	ダクタイル鋳鉄管・鋼管率(%)	((ダクタイル鋳鉄管延長+鋼管延長)/管路総延長)×100	水道管路の材質のうち、強度が高いとされているダクタイル鋳鉄管と鋼管の延長が管路の総延長に占める割合を表しています。	↑	65.7	65.9	66.3	66.7	67.1
5103	管路の事故割合(件/100km)	(管路の事故件数/管路総延長)×100	水道管の破裂、破損などの事故件数を管路の総延長100km当りの件数で表した指標です。	↓	12.0	11.5	11.3	10.7	9.5

番号	業務指標	算定式	業務指標の説明	指標値					
				H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	
5104	鉄製管路の事故割合(件/100km)	(鉄製管路の事故件数/鉄製管路総延長)×100	鉄製管路(铸铁管、ダクタイル铸铁管、鋼管)の破裂、破損などの事故件数を鉄製管路の延長100km当りで表した指標です。	↓	6.9	6.8	6.1	5.6	5.3
5105	非鉄製管路の事故割合(件/100km)	(非鉄製管路の事故件数/非鉄製管路総延長)×100	ポリエチレン管など鉄製管路以外の非鉄製管路の破裂、破損などの事故件数を非鉄製管路の延長100km当りで表した指標です。	↓	27.2	25.2	26.4	25.4	21.7
5106	給水管の事故割合(件/1000件)	(給水管の事故件数/給水件数)×1000	給水管(公道上の配水管から各家庭等への引込管)における破裂、破損などの事故件数を給水件数1,000件当りで表した指標です。	↓	9.2	8.5	7.9	7.4	6.5
5107	漏水率(%)	(年間漏水量/年間配水量)×100	年間の配水量に占める漏水量の割合を表した指標です。	↓	5.5	6.3	6.2	6.4	6.7
5108	給水件数当たり漏水量(m ³ /年/件)	年間漏水量/給水件数	給水件数1件当りの年間漏水量を表した指標です。	↓	15.8	17.8	17.4	17.6	18.2
5109	断水・濁水時間(時間)	(断水・濁水時間×断水・濁水区域給水人口)/給水人口	給水人口一人当たり、年間何時間断水又は濁水の被害を受けたかを表した指標です。	↓	—	—	—	—	—
5110	設備点検実施率(%)	(電気・計装・機械設備の点検回数/電気・計装・機械設備の法定点検回数)×100	電気・計装・機械設備の点検回数の法定点検回数に対する割合。管理の適正度を示す指標です。	↑	1,349	1,264	1,263	1,258	1,234
5111	管路点検率(%)	(点検した管路延長/管路総延長)×100	年間に行った管路点検の延長割合であり、管路の健全性確保に対する執行度合いを示す指標です。	↑	25	25	24	25	28
5112	バルブ設置密度(基/km)	バルブ設置数/管路総延長	管路延長1km当りのバルブ設置数を表しています。	↑	—	—	—	—	—
5113	消火栓点検率(%)	(点検した消火栓数/消火栓数)×100	年間に点検した消火栓の割合を表しています。	↑	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
5114	消火栓設置密度(基/km)	消火栓数/配水管延長	管路延長1km当りの消火栓設置数を表しています。	↑	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5
5115	貯水槽水道指導率(%)	(貯水槽水道指導件数/貯水槽水道総数)×100	貯水槽水道に対して行った調査・指導の件数の割合を表している。水道事業者が貯水槽水道の安全管理についてどの程度関与しているかを示す指標です。	↑	6.1	2.3	8.8	9.0	8.8

国際(我が国の経験の海外移転による国際貢献)

番号	業務指標	算定式	業務指標の説明	指標値					
				H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	
6001	国際技術等協力度(人・週)	人的技術等協力者数×滞在週間	水道技術及びそれに関連する事務、経営管理を含む人的技術協力のために、公的に海外派遣された人数に滞在週間を掛けた指標です。	↑	0	0	0	0	0
6101	国際交流数(件)	年間人的交流件数	人的技術協力のために公的に海外派遣された件数と情報交換、会議、研修等に出席するために海外出張した件数及び海外から来日した件数を表しています。	↑	2	7	2	2	6